

R1 【国語】

【生徒の課題】

文章の読み取りはある程度できても、読み取った内容を自分の言葉で表現したりまとめたりする力に課題がある。また、言語への関心を高め、語彙力を伸ばすことが課題である。

学力調査における内容及び観点別の分析

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
到達度	おおむね満足できる	課題がある	おおむね満足できる	努力が必要である	おおむね満足できる
課題点	興味・関心を引くよう、主体的、自発的に調べる課題等を積極的に設定する。	構成を工夫して話すことや、目的や場面に応じた語句を選択して話すことに課題が見られる。	目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えを表現できる力を付けさせる。	論理の展開の把握力、場面展開や描写に注意して内容を理解する力に課題が見られる。	古典の内容理解、文脈に即して漢字を正しく読む力・適切に使う力に課題が見られる。

【課題解決の手だて】

- ・ 論理的な文章にふれる機会を増やし、自身で筋道を立てて展開を説明できる力を養う。そのために、定型に基づいた文章を作成する。
- ・ 自分の考えを述べる際に、目的や場面に合った伝え方をするために、様々な場面を想定し、話す機会を増やしていく。また、プリントを通して構成の組み立て方等の技術指導を明確に行うとともに、生徒同士でよりよい伝え方を考える機会を設ける。
- ・ 教科書の新出語句や表現を取り上げ意味を確認し、その語句や表現を用いた例文を作らせたり、様々な表現を使ったりすることができるように指導する。漢字の読み書きに関しても、熟語の使い方を示しながら反復練習するよう指導する。また、文法指導の際には知識の習得だけではなく、日常生活との関わりを意識させ、文法の知識を日常生活にも生かせる力を養う。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

【読む・書く】・・・教科書の文章を正確にかつ滑らかに音読できる。またその内容を理解し、要約したり根拠をもって自分の考えを書いたりすることができる。

【話す・聞く】・・・メモを取りながら話を聞き、内容を的確に理解できる。場に応じた話し方で自身の主張ができる。

【言語】・・・漢字検定4級程度の漢字や言葉の知識を身に付ける。

【意欲を高める評価の工夫】

生徒の発言によって内容理解が深まるように、発言の機会や発表活動を積極的に取り入れていく。また、多様な意見が出るように発問に工夫を凝らし、意見交流（学び合い）の場面を積極的に設け、主体的、意欲的な学習に繋げていく。適宜、ICT機器も利用しながら関心を高め、効率的に授業を進める。

R1 【数学】

【生徒の課題】

「知識・理解」については、前学年の内容をきちんと理解して取り組んでいる生徒が大半であるが、一部では、小学校の基礎知識や数学的用語などが定着不足な生徒もいる。「技能」については、基礎的な計算方法が定着していない生徒がいる。「見方や考え方」については、既習事項と結びつける力が弱く、そこから思考して、解決に導こうとする意欲も弱い傾向にある。生徒の考えを引き出すような発問で思考力を伸ばし、生徒間の考えを共有することで、判断力を養うような取り組みを行っていききたい。また全体的に説明する力が弱いため、表現力をつけさせる意味でも考えを発表する場を設けていききたい。

学力調査における内容及び観点別の分析

観点	数学的な事象への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	数量、図形についての 知識・理解
到達度	努力が必要である	課題がある	努力が必要である	努力が必要である
課題点	・家庭学習習慣の定着に課題がある。 ・数学的な内容に対する知的好奇心が高くない。	・筋道を立てて問題を解決する力に課題がある。	・計算問題については意欲的に取り組む。 ・自分の誤りに対して振り返りの取組が少ない。	・基本的な語句や意味について軽視する面があり、正確に理解することが必要である。

【課題解決の手だて】

【関心・意欲・態度】

- ・適切に宿題を提示し、家庭での学習機会を設けるようにする。
- ・生徒が興味を示せるような、具体的な事象を導入や利用に取り入れるなどし、物事を数学的に捉えられるような授業設定を行う。
- ・オリンピック、パラリンピックの内容など、世の中の事象を取り入れる。

【見方や考え方】

- ・思考力を養う手立てとして、学び合いを取り入れ、生徒間で思考の手助けを行うような場面を設定する。
- ・生徒間での考えを共有する際には、どの解法がより簡単であるのかや、便利であるのかなどを判断し、それを記述させるようなワークシートを作成する。
- ・グループワークの際には、そのグループの内容を精査し、全体に発表するような場面を設定し、表現力を養うようにする。

【技能】

- ・定期的に計算練習を行い、基礎的な問題の定着を図る。
- ・テスト直しや授業中の解説時などに、自分の間違いを振り返る場面を設定する。

【知識・理解】

- ・教師側が、その場に適した数学的用語を使ったり、生徒の発言時にも数学的用語を指摘するなど、その場での定着を図っていく。
- ・前年時の内容を導入の際に復習として取り入れることで、振り返りの機会を作る。
- ・放課後学習を行ったり、復習プリントを作成したりと、生徒の学びなおしができる機会を作る。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- ・都立高校入学者選抜学力検査の問1のような基礎的な計算・基本的な内容について理解し、解くことができるようにする。
- ・思考力の面では、身の回りの事象を数学的に説明できるようにする。
- ・判断力の面では、様々な解法を見比べ、より適切な解法を選べるようにする。
- ・表現力の面では、身の回りの事象について、自分の考えを数学的な用語を用いて説明できるようにする。

【意欲を高める評価の工夫】

- ①習熟度別少人数授業を利用して生徒一人一人への働きかける時間を多くする。
- ②習熟度に応じた課題を適切に提示するなど、個に適した指導の充実を図り、評価するようにする。
- ③振り返りシートにコメントを書くなど、生徒が達成感を得られるような評価方法をする。

R1 【英語】

【生徒の課題】

個々には、コミュニケーションをとろうとする気持ちがあるが、全体の中では、間違えて答えることを極端に避けるため、英語の表現を自ら考え発表することに躊躇する姿勢が見られる。語彙や英文の基本的知識・理解に課題が見られるため、読解や英作文の際に苦手意識が生じている。語彙や英文法を理解し、自信を深め、使える語彙や表現を増やし学習した英語を運用する力を身に付けることが課題である。

学力調査における内容及び観点別の分析

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
到達度	おおむね満足できる	課題がある	課題がある	課題がある
課題点	授業は意欲的に取り組んでいて、教科、コミュニケーションへの関心・意欲が上がっている。ペアワークなど会話活動も意欲的に行われている。発表活動では失敗や間違いを恐れ、躊躇する傾向がある。	習得したシンプルな英語を活用して表現できない生徒が多い。会話活動等で相手に質問する力を付けさせ、会話を続けさせることも課題である。	聞くことにおいては概ね内容が理解できている生徒が多い。教科書や与えられた英文の内容を理解し、質問に対し核になる単語だけで答えることはできる。しかし、英文で答えることには苦手意識を持つ生徒が多いことが課題である。	文を正しく書いたり話そうとしたりする際の語彙や語順の認識に課題が見られる生徒がいる。

【課題解決の手だて】

- ・授業の取組の中で、教科書の内容だけを指導していくのではなく、英語の歌や海外の写真、ビンゴ、チャンツなど、文化的要素やゲーム的要素を多く取り入れる。また、授業でのウォームアップを工夫するなどして、積極的に発声する習慣を付けさせる。
- ・ペアワークでは、既習文法や新出文法が入った英文を用い、コミュニケーション活動を帯学習として定着させる。その中で、分からない時はペアで教え合いができる座席配置を工夫し、協同学習が自然にできるようにする。ALTとの会話では視線を意識できるように、会話は立って向かい合い、アイコンタクトを意識させる。
- ・授業ではピクチャーカードを有効に使い、オーラルイントロダクションを取り入れ、リスニング力や表現力をつけるような工夫をする。生徒の理解に応じて運用できる表現を板書に示し、活動に前向きに取り組めるようにする。またGTECの結果やオンライン英会話を活用する。
- ・「東京方式少人数・習熟度別ガイドライン」に沿って基礎的・基本的事項を復習させる。
- ・教科書の音読指導を丁寧にし、練習する時間を取り、正しい発音や英語のリズム、内容を理解する力を付けさせる。
- ・小テストや単元テストを行い授業で学習したことの定着を図り、授業感想シートを参考にしながら、自ら考える課題に取り組むための基礎学力を付けさせる。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- ・意欲的に英語に接する態度を身に付ける。
- ・場面に応じて、挨拶をしたり、会話を続けたりすることができる。
- ・必修単語に加えて、日常会話に必要な、基本的な単語を書くことができる。
- ・簡単な自己紹介やスピーチを英語を用いて発表することができる。
- ・教科書本文等のまとまった英文を読んで概要を捉えることができる。
- ・教科書本文等のまとまった英文を正しい発音で音読することができる。

【意欲を高める評価の工夫】

- ・授業内でのよい発言に対して、英語（Good, Great, Excellentなど）を使用して評価する。
- ・定期テストだけでなく、スピーチや発表の評価を行い、自信を付けさせて次の意欲へつなげる。
- ・授業や課題にしっかり取り組んだ生徒が好成績を収められるよう、試験の出題方法・内容を工夫する。
- ・簡単な英語や既習の英語でのオールイングリッシュの授業を目指し、英語の習熟が一層図れるように工夫する。

R1 【社会】

【生徒の課題】

社会科の授業に意欲的な生徒が多く見られる。しかし、基本的知識の定着やその知識をもとに、様々な資料を読み解くこと、その資料から課題や問題点を取り出し、自分なりの解決策を考え出す力を付けることが課題である。また、日頃からニュースや新聞など、社会の話題について触れていない生徒が多いため、社会的事象について学び、それが現在の社会でどのようにつながっているかを理解することが課題である。

学力調査における内容及び観点別の分析

観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
到達度	満足できる	課題がある	課題がある	課題がある
課題点	どの学年を通してみても、社会の授業に興味を持ち、課題に取り組む様子が見られる。学年を経るごとに、実際の社会的事象に興味関心をもつようになっている。	社会的事象について、様々な角度からとらえ、自分の言葉で表現できるようにしていくのが課題である。	様々な資料に触れ、複数の資料から物事を考察する力をつけることが課題である。	生徒によって、能力に差がある。特に2年生は復習、小テストや家庭学習などを定期的に行うことで、知識を定着させていくことが課題である。

【課題解決の手だて】

- ・興味・関心を引き出せる様に世界や日本の諸地域の様子が分かる映像・写真教材や、時代の流れをわかりやすくするための映像を積極的に活用していく。歴史では、流れをパワーポイントなどで提示し、理解しやすいように工夫する。
- ・新聞やインターネット等の教材を利用するとともに、主権者教育にも取り組み、課題を身近に感じられるようにしていく。
- ・様々なデータ・グラフを複数活用し、課題を多面的・多角的に理解できる能力を育てる。
- ・資料の読み取り結果や自分の考えを文章で表現できるように、ワークシート作りを工夫する。
- ・課題を設定し、それに対する解決策とその根拠を自分なりに考え、表現する活動を増やす。また、グループでの活動や発表活動を通し、多の意見を聞いて自分の意見を深める活動を積極的に取り入れる。
- ・单元ごとに小テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- ・地理…47都道府県の位置や地域的特色を理解する。50カ国程度の国名と位置を理解し、世界の国々や地域的特色を理解する。日本の諸地域における、自然・人口・産業などの特色をおおまかに説明できる。
- ・歴史…時代の特色や重要な歴史的な事象について理解する。日本史全体のおおまかな流れを、日本だけでなく、世界史との関わりの中で理解し、現代社会とのつながりを説明できる。
- ・公民…日本国憲法に規定された人権や政治の仕組みについて説明できる。現代社会の事象や問題に対して関心をもち、今後の自分の人生を豊かにするための基礎を養う。

【意欲を高める評価の工夫】

- ・ワークシートやノートなどを定期的に確認し評価する。また、優れた考え方や工夫ができている生徒を授業等で紹介・評価する。
- ・授業の内容と関連する、現在報道されているニュースやしんぶんきじと卵をワークシートに盛り込み、現代社会に目を向けさせる。また、それに対して自分なりに考えさせることで、現代社会の問題に関してより深く興味を持たせる。
- ・グループで課題について話し合い、意見をまとめて発表することを通して、学び合いの姿勢を育てる。

R1 【理科】

【生徒の課題】

日常生活が便利で快適な状況で生活しているため、理科的現象の実体験の必要がなくなっている。そのため、学習に結びつく現象が身のまわりで起きていても、気付かなかつたり気付いてもその現象の不思議さや原理に関心をもてない生徒が多い。よって、その現象を科学的に考ようとしなない生徒も多い。

さらに、問題の内容を正確に理解し、課題解決に向けて筋道を立てて考えられる生徒も少ない。よって、観察や実験を指示通りに取り組むことが目的になってしまっているため、理科的現象を理解したことに喜びを見いだせる生徒が少ない。

学力調査における内容及び観点別の分析

観点	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
到達度	課題がある	おおいに課題がある	課題がある	かなり課題がある
課題点	身近な自然事象への関心を持ち、日常生活と関連付けながら、学習に取り組もうとする生徒が少ない。	観察・実験の結果を正確に把握し、その結果が何を意味しているかを考えることが苦手である。さらに、その結果から科学的な法則を見いだすことは最初からあきらめている生徒が多い。	観察・実験を教科書に書いてある手順通りに完全に正確に行う技能はおおむね身に付いているが、その実験の目的まで理解している生徒が少ない。	理科用語や物質の名称、法則名などを正確に覚え、その知識を活用できる生徒が少ない。

【課題解決の手だて】

- ・観察・実験を多く設定し、その目的やねらいを日常的な自然現象と具体的な例を挙げて結び付けて、分かりやすい表現で提示する。そのことで観察・実験の目的を意識して取り組ませることができる。

- ・観察・実験の目的を達成させるために、正確に実験方法を理解させた上で実験を行わせることにより、実験技能を向上させる。

- ・観察・実験の結果を正確にワークシートに記入し、その結果を考察し、小グループやクラスで対話を通じて、理解を深めるとともに、思考力・表現力を身に付けさせる。

- ・学力定着のために、基本的知識の問題は单元ごとにテストを実施する。正答率の低いグラフや作図・計算問題などは繰り返し練習する時間を設けてから確認テストを行う。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

①指定された時間内に、安全かつ正確に観察・実験ができる。

②実験の目的を理解し、正確な結果から考察できる。

③科学的な理論を理解し、知識を確実に身に付けた上で身のまわりの事象を自分の言葉で表現できる。

【意欲を高める評価の工夫】

①生徒の学力に合わせた基礎問題の演習を繰り返し、習得できたという経験を授業内でもたせた上で評価する。

②定期考査や单元テストだけでなく、実験技術やワークシート、ノートの取り方など日頃の学習内容も評価する。

③優れたノートや観察スケッチなどを紹介したり、生徒が授業内で自分の考えを発表する機会を設け、達成感を高めさせた上で評価する。

④アクティブラーニングを導入し、話し合い活動とその内容を発表することで、その内容に対する理解を深め、科学的に考える機会を設けた上で評価する。

R1 【音楽】

【生徒の課題】

- ・歌唱が好きな生徒は多いが、自分の歌声に自信がなく、周りが歌えば歌うという受け身になってしまふところがある。
- ・曲に込められた思いや意図を感じ取り、自分の言葉で表現することに抵抗のある生徒が多い。
- ・自ら音楽に触れる機会をもっている生徒は少ない。

【課題解決の手だて】

- ・表現の技能を高め、自信をもたせるために、よい表現を褒め、声を出しやすい雰囲気をつくる。
- ・他者のよい表現から学び、自己の表現力を高めるために意見交換や発表の場を多く設ける。
- ・自分の考えをまとめた後に、パートやグループで他者と意見交換をする機会を設定し、その後、全体で共有することで自分の考えをさらに深めさせる。
- ・鑑賞の授業では、根拠をもって自分の言葉で批評できるように聴くポイントを明確にしたワークシートを作成する。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- 将来に渡り音楽を愛し、感性豊かな人間となるために必要な力を身に付ける。
- その音楽の特徴やよさを感じ取り、思いや意図をもって音楽表現を工夫できる。
- 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付ける。
- その音楽のよさや美しさを味わって音や音楽を聴くことができる。

【意欲を高める評価の工夫】

- ・本時の目標や学習内容を板書し、その時間の学習の流れをつかみ、見通しをもたせる。
- ・合唱達成カードを活用し、自己の振り返りから次時への目標をもたせる。
- ・自分たちの演奏を録音して聴かせ、課題点と改善策について意見交換させる。
- ・互いの表現を認め合い、自己の表現力を高める意欲をもたせるために、歌唱の実技テストを発表形式で行う。
- ・鑑賞の授業では、簡単に取り組める導入課題で聴き方のヒントを示し、関心をもたせる。

R1 【美術】

【生徒の課題】

- ・多くの生徒が前向きに制作に取り組んでいるが、もともと持っている得意・不得意のイメージによって、作品の進捗や完成度に差が生じており、作品を最後まで完成させるという意識の低下につながっている。
- ・自分自身の表現やアイデアに自信が無い生徒が多く、互いに作品を鑑賞し合うことに対して消極的である。
- ・例や模範作品をすぐに求めてしまい、苦心して自分自身の表現を生みだす姿勢に欠ける生徒が一部に見られる。
- ・美術館に足を運ぶなど、自ら様々な表現に触れる機会をもっている生徒は少ない。

【課題解決の手だて】

- ・作品のアイデアを練る段階から完成まで、進捗の目安をあらかじめ提示して制作の見通しを持たせる。
- ・進捗状況表を活用し、中間講評やアイデア交流の場を設定し、短いスパンでチェックポイントを設けると同時に、生徒同士で作品について考え合うことで、表現の幅を広げていく。
- ・ICTを有効活用し、視覚的な資料の提示や多様な表現方法の面白さを互いに認め合える鑑賞の授業を多く設定する。
- ・活動や制作を振り返り、作品に解説文や題名を付けるなど自分の考えを見つめなおし、制作を通した内面の変容に気付く場面を設定する。
- ・提出期限の意識を高めるために、掲示や目標確認を毎回行う。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- ・表現活動を楽しみ、自分自身や他者の表現の良さや美しさを追求することができる。
- ・身近な自然や友達の作品、文化遺産や著名な作品から良さや美しさを感じ取り、鑑賞することができる。
- ・作品の制作や鑑賞の体験を他の様々な学習や経験と関連付け、生活を豊かにする美術の役割を感じることができる。
- ・作品制作を通して自分自身に対する理解を深め、作品や考えを第三者に伝えることができる。

【意欲を高める評価の工夫】

- ・生徒が小さなステップを達成しながら、作品完成までの見通しを持って作業を進めることができるようにする。
- ・中間評価や相互評価を多く設定し、作品をチェックするポイントや良い作品の共有をする。
- ・基礎的な表現方法や技術を一人一人が確実に習得できるようにする。
- ・諦めずに最後まで制作に取り組むことの大切さを学び、作品を完成させることで達成感を味わえるような教材を選ぶ。
- ・自分の考えや感じ方を大切に、制作や鑑賞を通して自分自身を振り返る場を設定する。
- ・我が国及び世界の国々の伝統と文化に関する作品及び、生徒作品を中心に、生徒にとって普段触れる機会の少ない表現や、身近な題材をバランス良く積極的に鑑賞で活用する。

R1 【保健体育】

【生徒の課題】

- ・目標や課題に向かって取り組もうとする生徒が多い。
- ・感覚的に運動を習得しようとする生徒が多い。
- ・自己の身体への気づきが不十分であり、保健の授業を実生活に生かす実践力に欠ける。
- ・始業前のランニング、準備運動を自主的に進めることにより、「始業時間を守る」という授業規律の基盤はできているが、それぞれをていねいに行うことに課題が残る。

【課題解決の手だて】

- ・明確なスモールステップを設定することで小さな成功体験を多く積み重ね、より高い目標に挑戦する意欲を育てる。
- ・種目によって、同じ課題や同程度の習熟度のグループや、課題や目標の異なるグループを設定するなどして、様々なグループ学習を取り入れ、学び合いを活性化させる。また、自身の運動を動画や仲間の指摘などを基に分析し、運動の修正につなげさせるとともに、思考力、判断力、コミュニケーション力をつけさせる。
- ・ランニング、準備運動を行うことの目的や効果を体育の授業だけでなく、保健の授業でも扱って理解させ、それぞれを意識させながら取り組ませる。
- ・オリンピック・パラリンピック等の身近な話題（新聞やニュース等）を題材とし、保健の授業が実生活と深く結び付いていることに気付かせ、自己の心身をコントロールする力を身に付けさせる。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

保健分野…健康についての関心を高め、それを保持・増進する知識と実践する能力を身に付ける。

体育分野…様々な運動の基礎的技能を高めさせ、スポーツに親しむ態度を育む。

基本動作の模倣力、応用動作の洞察力、仲間を尊重する態度を育む。

安全第一であるとともに、ルールを遵守する態度を身に付ける。

自ら気づき、率先して準備・片付けに取り組む姿勢をもつ。

【意欲を高める評価の工夫】

・実技テスト時

→評価のポイントや評価方法を明らかにした実技テストカードを利用する。（事前に生徒へ配付し、評価のポイント＝技能ポイントということを理解させる。）

→評価をその場で生徒に伝え、次につながるアドバイスをを行う。

・学習カードで自己分析のヒントとなるように、技能ポイントを学ばせ、挑戦しやすい環境をつくる。

・学習カードを活用し、一人一人の課題を書かせ、明らかにすることで、次回や次の領域に向かっての意欲を高める。

・自主練習、グループ学習の場を設定し、相互評価及び教員によるアドバイスタイムを設ける。

・動画や静止画による資料提示を行い、視覚的な理解を深める。

R1 【技術・家庭】

【生徒の課題】

- ・家庭生活の中で、ものづくりや衣食住に関わる仕事の体験が少ない生徒が多い。
- ・工夫や創造する力を要求される課題を苦手とする生徒が多い。
- ・実習に関して興味・関心のある生徒が多い反面、技術面では習得に時間がかかる生徒が多い。

【課題解決の手だて】

- ・画像や実物を活用したり、「幼児との触れ合い体験」などを通して、生活体験や知識の少なさを補う。
- ・グループでの実習で、作業が一部の生徒に偏らずに一人ひとりが取り組める題材を設定する。
- ・導入教材などを活用して、製作のイメージや見通しをもたせ、基本的な技能を身に付けさせる。
- ・問題解決型の学習に取り組みせ、調べたり読み取ったりする活動を行う。
- ・発表の場面を設定し、互いの意見を聞き合うことから多様な考え方を知り、そこから自分の生活をよりよくする工夫を深めさせる。
- ・グループ学習を通して、教え合い助け合う場面を設定する。
- ・難易度を変えた実習題材を用意し、自分の技能に合わせて選べるようにする。

【基礎学力（卒業までに身に付ける学力）】

- ・実生活と結びついた知識や技術を習得することで、自分自身の生活に意欲的に生かそうとする態度を育てる。
- ・環境や資源、安全に配慮した生活を工夫する力を育む。

【意欲を高める評価の工夫】

- ・実習ではその時間ごとの目標を明確にし「できた」「できない」が本人に分かるようにする。
- ・技能を評価する場面では、目標になるように評価規準を実物で示す。
- ・作品、ワークシート、ノート、自己評価、感想文、テスト等多角的に評価する。
- ・班活動など小集団での話し合いや助け合い活動を通して、発言する機会を増やす場面の設定をする。